

宋惠媛／宮本正明編・宋惠媛解説

続 在日朝鮮人 文学資料集

一九四六～六〇

在日朝鮮人資料叢書20

本資料集の刊行意義

▼一九四六年から六〇年までの在日朝鮮人の文学的営みの問題点と作品を知る貴重な資料。

▼一九五〇年代の在日朝鮮人の精神史を辿る上での基礎資料。

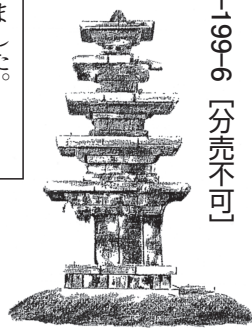
▼祖国の朝鮮戦争と南北分断の状況が在日知識人の文化・文学運動に与えた影響を知ることができる。

▼在日朝鮮人史、日本戦後史研究に欠かせない文献。

■体裁 全2巻／補巻1・A5判・総二〇〇〇頁・上製クロス装・ケース入り
■定価 本体60,000円＋税 ISBN978-4-89774-199-6〔分売不可〕
■刊行 令和2年11月刊

◆在日朝鮮人資料叢書最終刊

本資料叢書は、今回の第20集を最終配本として、完結致しました。
永い間、本叢書をご愛顧いただきまして、誠に有難うございました。
尚、品切れ・在庫僅少の書籍が増えていきます。欠集の巻につきましては、
早めに、補充していただけることを、お勧めいたします。



在日朝鮮人資料叢書

在日朝鮮人運動史研究会監修

- 1 在日朝鮮人史資料 在日朝鮮人運動史研究会編 全2巻／24000円
- 2 在日本朝鮮人商工便覧 一九五七年版 在日本朝鮮人商工連合会編 6000円
- 3 戦後初期在日朝鮮人人口調査資料集 長澤秀編 全2巻／36000円
- 4 在日朝鮮人教育関係資料 佐野通夫編(品切) 全3巻／46000円
- 5 朝鮮人強制動員関係資料 山田昭次編(品切) 全2巻／24000円
- 6 在日朝鮮人留学生資料 裴鈴美編(品切) 全3巻／54000円
- 7 在日朝鮮人警察関係資料 福井讓編 全3巻／48000円
- 8 在日朝鮮人生活保護資料 金耿昊編(品切) 全2巻／36000円
- 9 在日朝鮮女性作品集 宋惠媛編(品切) 全2巻／32000円
- 10 関東大震災朝鮮人虐殺裁判資料 山田昭次編 全2巻／36000円
- 11 資料メディアの中の在日朝鮮人 外村大・韓載香・羅京洙編 18000円
- 12 神奈川朝鮮学校資料 大石忠雄編 全2巻／36000円
- 13 朝鮮人強制動員韓国調査報告 龍田光司編 全2巻／36000円
- 14 在日朝鮮人文学資料集 一九五四～七〇 宋惠媛編 全3巻／56000円

日本朝鮮研究所 初期資料

■井上學・樋口雄一編／戦後日本の朝鮮研究はどのような形で新たな出発をし、どのような課題を抱えていたのか、創設期及び初期の内部資料を収録。
全3巻／54000円

『セチヨソン』 新朝鮮 地方版

■鄭栄桓編／朝鮮戦争中に在日朝鮮人が結成した非公然組織「祖国防衛委員会」機関誌。入手困難な西日本・九州・東京等発行の地方版他、全国版欠号分も収録。A4判／全2巻／46000円

在日朝鮮文学会 関係資料

■宇野田尚哉編・宋惠媛解説／一九四五年の「解放」から六〇年までの在日朝鮮人文学の空白を埋める貴重な資料。「在日朝鮮文学会」の機関誌を中心に収録。
全3巻／54000円

在日朝鮮人国勢 調査資料

■木村健二編・解説／一九四〇年に日本「内地」に居住する朝鮮人を含む第五回国勢調査が実施された。本調査は産業別・職業別・年齢別の戦前唯一の在日朝鮮人調査。全2巻／38000円

在日朝鮮人 ハンセン病資料

■金貴粉編／朝鮮人ハンセン病患者の社会的諸差別との闘いを記録。戦後の日本社会における民族的・人種差別の実態・政策の検証・分析にも不可欠の資料。
全3巻／60000円

宋惠媛／宮本正明編・宋惠媛解説

続 在日朝鮮人 文学資料集

一九四六～六〇

全2巻／補巻1

朝鮮戦争の勃発に始まる一九五〇年代の日本社会および在日朝鮮人社会の大きなうねりの中で、朝鮮青年たちは何を思考し、どのような未来を描いたのか。彼女や彼らにとっての「日本」とは何だったのか。本書からは、日本に根づいた、あるいは日本を仮の宿とした、当時の朝鮮青年たちの思考の軌跡を辿ることができる。

本書は叢書既刊の9『在日朝鮮女性作品集』、14『在日朝鮮人文学資料集』、17『在日朝鮮文学会関係資料』に続く第四集目の在日朝鮮人文化・文学関連資料で、一九五〇年代の作品を収録。補巻には在日朝鮮文学会等発行の未収録資料を収めた。

青丘



創刊号

抵抗群

第一集



Angelus

クリスマス合併号



THE MUGUNHWA
無窮花



July 1946
創刊號

朝鮮建国促進青年同盟福知山支部
文化部

문학창조

創刊号

문학 창조 동인회

波 菜



2号

福岡県朝鮮人文芸同好会

在日朝鮮人 資料叢書20

在日朝鮮人運動史研究会監修

叢書最終刊

緑蔭書房

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1
電話 03 (3579) 5444 FAX03 (6915) 5418
〔消費税が別途加算されます〕

●下記の書店にお申し込み下さい。

▼刊行の辞

本書は、在日朝鮮人発行の文化・文学関連の同人誌、サークル誌、機関誌等を収録した資料集である。第Ⅰ部(1・2巻)は、G H Q／S C A P占領期の日本で発行された雑誌、在日キリスト教団体の機関誌、一九五〇年代に在日青年が発行した雑誌等で構成されている。第Ⅱ部(補巻)は、在日朝鮮文学会と、その後継団体の在日朝鮮文学芸術家同盟が発行した資料のうち、これまで刊行した関連資料集から漏れたものを補った。

すでに、緑蔭書房からは『在日朝鮮女性作品集 一九四五～一九八四』『叢書9』『在日朝鮮人文学資料集 一九五四～一九七〇』『叢書14』『在日朝鮮文学会関係資料 一九四五～一九六〇』『叢書17』が刊行されている。本書は、これらに続く第四集目の在日朝鮮人文化、文学関連資料集となる。各資料集が扱う時期を大まかにみると、【叢書9】は、一九四五年から一九八〇年代まで広く網羅しており、【叢書14】は一九四〇年代後半、【叢書17】は一九六〇年代の資料が中心となっている。本書の第Ⅰ部に収めたのは、主として一九五〇年代に発行された資料である。青年たちの作品が大部分を占めている。既刊資料集と同じく、これらの作品の底流には冷戦下での脱植民地化、日本語で書くのか朝鮮語で書くのか、南北朝鮮や日本の文学界との接続と断絶、世代間葛藤といったテーマがある。

朝鮮戦争勃発で始まった一九五〇年代には、在日朝鮮人社会内での南北対立、日本共産党とその周辺の日本人たちとの連帯とすれ違い、朝鮮民主主義人民共和国と直結した在日本朝鮮人総聯合会の結成などが起きた。そうした動きの中で、人の流れの停滞と移動が、入り混じりながら進行していた。第二次世界大戦後に再画定された国境が、在日朝鮮人たちの日本の外への移動を極めて困難にしていくと同時に、密航、亡命、朝鮮民主主義人民共和国への「帰国」といった様々な形でそれらの国境を越える朝鮮人たちが生まれたのである。

このような時代条件の中で、朝鮮青年たちは何を思考し、どのような未来を描いたのか。彼女や彼らにとつての「日本」とは何だったのか。本書からは、日本に根づいた、あるいは日本を仮の宿とした、当時の朝鮮青年たちの思考の軌跡を辿ることができるだろう。

▼収録資料(抜粋)

第Ⅰ巻

第Ⅰ部 続 在日朝鮮人文学資料 一九四六～六〇

一 『無窮花』朝鮮建国促進青年同盟福知山支部文化部

第一号 一九四六年七月

入山雄夫 「社会 肇国二千六百年」
朴珍都 「日本の朝鮮経済侵略について」

二 『十字架』朝鮮基督教東京教会青年会

第七号・第八号 一九四七年四月・六月

「絶望인가勝利인가」(説教)

姜舜 「茶喫」「帰路」(詩)

「詩篇의精神、偉大한信賴」(具明淑遺稿)

三 『新朝鮮』朝鮮文化研究会連合

第四号 一九五二年一〇月

特集 「総選挙と在日朝鮮人問題を語る」(座談会)

李相浩 「在日朝鮮人問題の本質」

四 『アンジェルス』在日韓国カトリック学生会

クリスマス合併号、第二三・二四合併号、第一五号 一九五三年二月、五四年二月・六月

韓光子 「乙女の冬」(詩)

金寿煥 「正しい学生運動の在り方」

金承浩 「新世代と世界観」

姜舜 「神の岸辺」(詩)

五 『白頭山』白頭山同人会 一九五三年四月

「新しい民族意識について」(座談会)

白東葉 「風を追って」(小説)

六 『荒波』福岡県朝鮮人文芸同好会

第二号 一九五四年四月

金春吉 「五羽の鶏」(詩)

金基昊 「獄中短信」

七 『抵抗群』『発行所記載なし』一九五四年五月

李樹 「閉ざされた夜」(小説)

李樹 「少女と税務署のリヤカー」(小説)

八 『大同江』大同江文学集団

復刊第二号 一九五九年五月

申甲洙 「ためらうことなく祖国へ」(随想)

林史植 「傍観者」(小説)

九 『靑丘』東海朝鮮文化協会内、靑丘編集委員会

第一号 一九五五年二月

金德憲 「『春香伝』について」

朴秀鴻 「立秋」(小説)

第Ⅱ巻

九 『靑丘』(続)東海朝鮮文化協会内、靑丘編集委員会／靑丘文学会

第二号～第五号 一九五五年四月・十二月、五六年三月、五七年八月

張徹 「在日朝鮮人運動の転換の理論的基礎を何処におくべきか」

朴秀鴻 「朝鮮のボプラ」(小説)

金樹嶺 「死神廃業」(詩劇)

卞宰沐 「『朝鮮詩選』を読む」

金美子 「おもい」(詩)

全世峯 「戦う村の人々」

一〇 『新脈』新脈同人会

第二号 一九五五年二月

류벽(柳碧) 「강소년」(若返り)(小説)

一一 『창조(創造)』創造同人 一九五五年七月

創刊号

안우식(安宇植) 「六월의 일기」(六月の日記)(詩)

량선석(梁ソンソク) 「어린 자의 죽음」(幼い物乞いの死)(小説)

김석두(金石斗) 「유산의 정리와 계승에 관하여―재일본 문학을 중심으로―」(遺産の整理と継承に關して―在日本文学を中心に―)

一二 『信太山』信太山詩の会

創刊号・第二号 一九五五年四月・六月

朴順愛 「詩の方向と理解のために」

李順子 「学校に行きたいけど」

太田馮川 「信太山」を読んで

一三 『문학창조(文学創造)』文学創造同人会

第一号・第二号 一九五八年九月・五九年四月頃

김정일(金キョンイル) 「파탄」(破綻)(小説)

리수웅(李秀雄) 「아버지와 아들」(父と息子)(小説)

윤광영(尹クァンヨン) 「작가의 활동과 주제성―김 달수저〈조선〉문쟁을 중심으로」(作家の活動と主体性―金達寿著『朝鮮』論争を中心に)

一四 『물결(ムルキョル)』文学サークルムルキョル

創刊号 一九六〇年三月

최정호(崔ジョンホ) 「일본을 떠나면서」(日本を去るにあたって)

리원오(李ウォノ) 「어머니」(母)(小説)

리원정(李ウォンジョン) 「나오라 상아탑을」(出でよ象牙の塔を)(詩)

補巻

第Ⅱ部 既刊文学関連資料

一 『조선문예(朝鮮文芸)』『朝鮮語版』朝鮮文藝社

創刊号 一九四八年三月

金達寿 「文學者에 대하여―第一의告白・그의 1」(文學者について―第一の告白・その1)

姜舜 「洞簫」(詩)

金元基 「불효」(親不孝)(小説)

二 『朝鮮文藝』朝鮮文藝社

第六号 一九四八年二月

李殷直 「暴風の前夜」(小説)

林元俊 「年代記」(小説)

三 『우리문학(ウリ文学)』在日本朝鮮文学会

創刊号 一九四八年八月

李殷直 「우리의当面한 일」(私たちの当面の仕事)

魚塘 「文学의大衆化問題」(文学の大衆化問題)

李珍珪 「風景画断片」(詩)

四 『文学報』在日本朝鮮文学会

第二号・第三号 一九五三年四月・五月

李贊義 「在日朝鮮人作家おぼえがき」

「x도さやかな芽生え サークル誌」

金民 「朝の対陣」(小説)

五 『봉화(烽火)』在日本朝鮮文学会

創刊号 一九四九年六月

姜允 「반쪽발이 노래」(半チョップバリの歌)

박원준(朴元俊) 「素人劇用脚本 군중(2막3장)」(素人劇用脚本 群衆(2幕3場)(戯曲)

남악(南岳) 「청춘명령」(青春命令)(小説)

六 『군중(群衆)』在日本朝鮮文学会編集部

第四号 一九五二年二月

H.그리바(赫,남시우역(H・クリバーチエフ,南時雨訳) 「장편시 김일성」(長編詩 金日成)(訳詩)

허남기(許南麒) 「玄海灘」(詩劇)

전수영(全秀英) 「文化運動에 있어서의 몇가지 觀點」(文化運動においてのいくつかの觀點)

七 『문예활동(文芸活動)』在日本朝鮮文学芸術家同盟大阪

創刊号 一九六〇年七月

홍윤표(洪允杓) 「청동의 사령관」(青銅の司令官)(詩)

정인(鄭仁) 「여름은 또다시 돌아온다」(夏は再びやってくる)(詩)

량석일(梁石日) 「공간의 마술(1)」(空間の魔術(1))(評論)

八 『문예통신(文芸通信)』在日本朝鮮文学芸術家同盟中央常任委員会

第五号、第七号、第八号 一九六四年六月・九月・十一月

장철(張徹) 「조국에 드리는 환희의 노래―공화국 창건 16주년 경축 1964년도 재일본

조선인 중앙 예술 공연 대회를 마치고―」(祖国に捧げる歡喜の歌―共和国創建16周年慶祝1964年度在日本朝鮮中央芸術競演大会を終えて)(記事)

九 『朝鮮文学』朝鮮文学研究会

第一巻第四号～第七号、第二巻第一号 第二号、第三巻第一号 一九六九年九月～二月、七〇年二月・四月・一〇月、七一年一月

姜魏堂 「半日本人」(連載)

金在喆(鞠梨花訳) 「朝鮮演劇史」(連載)

北載昶訳 「新羅郷歌 二首」

金富軾(朴元俊訳) 「温達伝(三国史記・卷四五)」

崔曙海(千石影訳) 「故国」

朴元俊 「なぜ日本語で書くか」

小林勝 「懐かしい」と言ってはならぬ」

村松武司 「黒いゲーム」

平林久枝 「やさしい話」

呉林俊 「異郷残稿詩篇集成」